

布ナプキンという考え方があるよ！

コロナ禍で経済的に困窮する女性が増え、学生の5人に1人が生理用品入手にも不自由な状況にあるとの報道があった。そのニュースに、交野市在住の坂本茂代さん(72)は、じつとしていられなくなつた。病身で外出もままならない車いす生活でありながら、15年前、大阪府の地球温暖化防止活動推進員として、環境問題のNPO活動に取り組んでいた時の想いが蘇つたのだ。当時、環境破壊を食い止めたいと、生ごみのたい肥化やエコバックの普及などで走り回っていた。その時に、「使い捨



布ナプキンを作ろう

こんな世の中にしたんや。何かせなあかん!! コロナも人類が微生物(菌)や植物を痛めつけたんで、逆襲やないかと思うわ。一人ひとりが自分の生活を考えなあかんと思うよ。年寄りも科学者も政治家も、それぞれの立場でな」。

ての紙ナプキンをやめて自分だけの布ナプキンを作ろう」と普及に努めていた。そうだが、「布ナプキン」だ。これこそが、コロナ禍で貧しくて生理用品を買うことができないう女子に伝えたい「生きる力」だ。

「今までの生き方も、それぞれの暮らしを見つめなおす機会を与えられているのかもしれない。